

2024年5月7日

青山学院大学剣友会 2024（令和6）年度 通常総会 議事録

1. 日時：2024年4月27日（土）17：30～18：50

2. 場所：青学会館 2階校友会 A室

3. 出席者ならびに議決権行使の状況：

【執行部】上手康弘会長(S59)、毛利祐子副会長(短 S60)、都善行幹事長(S61)、
菊地祐二副幹事長(S60)、渡邊圭二事務局長(S62)、生方照胤副事務局長(H5)、
嶺俊輔副事務局長(H27)、中島一範会計(H15)、河上昌弘監査(H12)

【幹事】湯本かおり幹事(短 S59)、吉山壽一幹事(H3※オンライン参加)、原田伸也幹事(H5)

【相談役】五十嵐農夫相談役(S36)

【会員】今井則夫先輩(S44※オンライン参加)、稲垣公裕師範(S48)、寺内克行先輩(S49)、
風間隆宏先輩(S58)、町田慶介先輩(H9)、平吹博美監督(H10)、
鎌田奉文先輩(H10)、細田知公先輩(R4)

※招集案内ハガキ発送 452名、うち返信 139名(返信率 31%)

【内訳】会場参加 19名 + オンライン参加 2名 + 議決権行使 23名 + 委任状 22名（内2名は議
決権行使と重複） + 白紙（議長委任）75名 = 139名

4. 開会挨拶（上手会長）：

本日はお忙しい中 ZOOM 参加も含め参加頂き御礼申し上げます。剣友会は2月が決算月となっており、既に新年度が始まって2か月近く経過、会則に従い本日 2024年度の通常総会を開催したい。

ご存知の通り、旧年度中には『120周年記念行事』オール青山剣道祭という大きなイベントがあり、その開催、そして翌日参加した学連剣友剣道大会、これらの行事への皆様の並々ならぬご支援を頂き感謝申し上げます。このイベントは剣友会と現役学生の貴重な交流の場となり、また学連剣友大会での試合内容は、現役学生にも本学剣道場部を巣立っていった先輩方の熱い気持ちを見せることができたのではないかと？120周年記念行事を企画運営しながら考えたことだが、この120年の伝統を守り、活性化させ、未永く持続可能な形で次の世代へバトンを渡していきたい、そう改めて思った次第。これは同時に全ての先輩方の共通の想いと信じて止まない。

我々は今後も変わらず現役の剣道部活動を支援し、彼らが目標に向かって歩み続けられる様一丸となって剣友会を運営していこうではないか。今後とも引き続き先輩方のご指導ご鞭撻のお願いと、剣道部ならびに剣友会の発展、会員の皆様のご健勝を祈念し、開会の挨拶としたい。

5. 議事：

(1) 2023 年度活動報告

- ・渡邊事務局長より、資料①について説明。

⇒質疑意見等なく、全会一致で承認。

(2) 2023 年度決算（含、120 周年記念行事会計）・監査報告

- ・中島会計より、2023 年度決算および 120 周年記念オール青山剣道祭決算として、資料③-1、資料③-2 について説明。
- ・河上監査より、決算報告書の内容について、監査の結果、適正なものであるとの報告。

⇒質疑意見等なく、全会一致で承認。

(3) 2024 年度活動計画案

- ・渡邊事務局長より、資料②について説明。
- ・日程が空欄の行事については、判明次第随時 HP へ掲載するので、確認されたい。
- ・重点課題について、以下口頭補足。

① 会費納入率の向上

→引き続き納入率が低い状況であり、向上諸施策を検討中。

② 剣友稽古会（OB・OG 稽古会）の剣友会主管への移行と活性化、現役との連携強化

→土曜日の開催に変更となった。活性化や現役連携強化に向け、引き続き取り組みたい。

③ 会報の定期的発行による会員への剣友会活動の周知啓蒙

→剣友会ホームページにて都度周知は行っているが、閲覧者も限定的と思われ、定期的に会報を発行し郵送することも有効ではないか。

④ 高等部指導体制へのサポート

→金成先輩が今夏で高等部コーチをご勇退。今後の高等部との連携強化に向け、剣友会としてもサポートが必要ではないか。

⑤ 剣友会次期役員体制構築に向けた検討

→2023 年度で任期満了の執行部が 6 名。昨年度は 120 周年行事に注力したため、今年度中にスムーズな次期体制への引継に向け準備を進める。そのために、後ほど議案 6 にて任期満了役員 1 年間の特例延長を提案したい。尚、会則第 8 条の役員任期については、安易に変更すべきではないと考える。

【補足・意見】

(上手会長)

- ・2023年度のオール青山剣道祭は、120周年記念行事として学連大会とセットにするため、従来の11/23→12月開催に変更したが、中等部・高等部については、12月は試験期間と重複し、参加できない。大学剣道部には好評の一方、中等部・高等部も参加できる日程を再検討しても良いのでは。

(平吹監督)

- ・高校生の錬成会を開催したい。綺麗で広大な相模原キャンパスで開催出来れば良い。大学の活動のアピールにもなり、青学を志望したいと思う学生を一人でも増やせるのではないかと。そこに高等部も参加すれば良い機会となる。
- 昨年の120周年記念行事検討の中でも出された意見。遠方からの参加は課題も多いが、まずは首都圏近郊の高校から参加して頂ける様な形が良いのではないかと。剣友会としても前向きに検討していきたい。

⇒その他質疑意見等なく、全会一致で承認。

(4) 2024年度予算案

- ・中島会計より、資料④について説明。

⇒質疑意見等なく、全会一致で承認。

(5) 会則改定案

- ・渡邊事務局長より、資料⑤について説明。

⇒質疑意見等なく、全会一致で承認。

(6) 2024年度剣友会役員選任案・任期特例延長の取扱い案

- ・渡邊事務局長より、資料⑥、⑥参考資料について説明

⇒質疑意見なく、全会一致で承認。

(7) 会費納入率向上対応策【報告事項】

- ・生方副事務局長より、資料⑦について説明

【補足・意見】

(都幹事長)

- ・試験運用との位置づけでスタートし、来年の総会にて検証結果を報告したうえで、正式運用とするかを判断したい。

(渡邊事務局長)

- ・PayPay 以外にも校友会 HP から寄付できる仕組みも検討されており、有効な手段として選択肢を拡げていきたい。

(上手会長)

- ・体育会 OB・OG 連合会にて把握した他部の状況としては、チアリーディング部は納入率 80%以上。各年次の責任者が集金して、まとめて振り込むという運用。
- ・山岳部やハイキング部は、年に 3 回ほど会報を出し、都度振込用紙を入れている。納入した方にはお礼状、未納の方には再度振込用紙を入れる。納入率は 40～50%くらい。
- ・硬式野球部では、毎年記念品を作製し、会費納入者に返礼品として贈呈している。
- ・剣友会としても、2023 年度は 120 周年記念の寄付金募集もあったことから、ゆうちよ振込票の送付を試験的に行ったところ、効果はあったと考えている。2024 年度は会報も併せてトライアルしていきたい。

(風間先輩)

- ・30 年前も会費納入率をどう上げていくかという議論をしていた。当時から（会費納入額が）百数十万円程度だったので、あまり変わっていない。PayPay 等、時代にマッチした方法は良いと思う。

(平吹監督)

- ・「何のために会費を払っているのか」が見えないことも若手の納入率の低さの要因かもしれない。学生と OB・OG のコミュニケーションの「見える化」が必要ではないか。
- ・現役学生に対して、剣友会の部活動に対する支援・貢献をもっとアピールするべき。学生時代の実感が向上すれば、卒業後も会費支払いの誘因になる筈。

(都幹事長)

- ・幹事会等でも議論されているポイントである。会費の使用用途は総会（決算）資料としてこれまでもホームページに掲載しているが、閲覧者を増やすことと合わせて、会費用途の詳細が見える化することも必要。

(上手会長)

- ・一橋大学の剣道部は、運営費を全て OB 会で賄っている。200～300 万円ほど。その様子を見ている学生は卒業後も会費を払う流れに繋がっている。
- ・皆さんの意見も踏まえながら、納入率向上策を検討していきたい。

⇒その他質疑意見等なし。

(8) 新入会員承認報告【報告事項】

- ・渡邊事務局長より、資料⑧ について説明。3 月 10 日の 2023 年度第 2 回幹事会にて承認済み。

⇒質疑意見等なし。

(9) その他意見・報告事項

(今井先輩)

- ・会費納入率の向上については、ずっと続いている問題なので、継続議論が必要。
- ・大学側から卒業 25 周年・50 周年で記念楯が贈呈される制度があるが、同じような形式を導入し、オール青山剣道祭に当該年次の OB・OG を招待して、それを表彰してあげても良いのでは。(活性化アイデア)
- ・中四国の稽古会など地方会員の交流も行われている。少しずつでも色々な角度から活性化を目指してやってほしい。
- ・議案⑥の役員任期の特例延長については、1 年間に縛られず、やれる人がやる、という形も必要だろう。
- ・長野県信濃町(野尻湖) 在住なので、剣道部の夏合宿を長野で開催していただければ歓迎する。
→今年の夏合宿は、新潟県で開催決定済。(詳細は未定)
- ・卒業して 50 年以上経つが、あらためて青学剣道部あつての自分を認識している。若い人がこういう気持ちになるのは時間がかかると思うところ。剣友会として、「学生支援」と「OB 会親睦」のバランスを取っていくことが重要。

(細田先輩)

- ・会費について、若手としては、どのように使われているのかわからない点が多い。自分自身はお世話になったという気持ちもあるが、より明快になると若手の納入率も上がるはず。また手数料も小さい額だがネックに感じるので、PayPay 導入は賛成。

(生方副事務局長)

- ・中等部は、三好先生が 1 年間大学院へ行くため、加藤先生が窓口になる。生方先輩、原田先輩が稽古のお手伝いに行っている。

(澄副事務局長)

- ・高等部については、内部進学ではなく外部受験をする生徒が増加傾向で、塾通いの都合で土曜日の稽古参加者は4～5名という状況。金成先輩ご勇退後、関わりが薄くならないよう、平日に学生が顔を出すなど、関わり方の工夫が必要。

(上手会長)

- ・体育会OB・OG連合会にて、スポーツ推薦について、各部にスポーツ推薦枠1名という要望をしたが、新学長からは明確にNoと回答があった。一般受験をしてくれる高校生を増やすとともに、指定校推薦制度など、他の入学方法での有望選手獲得も引き続き検討していきたい。

以上

青山学院大学剣友会
事務局長 渡邊圭二
watanabe19254@gmail.com